

札幌市公立保育園

全体的な計画

札幌市子ども未来局子育て支援部

令和6年（2024年）7月改訂

1 「全体的な計画」 基本的考え方

「全体的な計画」は、保育所保育指針、児童の権利に関する条約等と札幌市の状況、保育理念、保育方針を踏まえ、入園から就学に至る在籍期間の全体にわたって、保育の目標を達成するための道筋であり、養護と教育が一体となった保育を示すものです。また、子どもの最善の利益の保障を第一義とする保育の根幹を示すものであり、指導計画やその他の計画の上位に位置付けられています。その中で、保育所・幼稚園・認定こども園が共通に担うべき新しい事項として示された「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」は卒園を迎える年度の具体的な姿としています。環境を通じた保育の中でこうした姿が育っていくことに、これまでよりも意識して留意することが求められています。更に、全体的な計画に基づき、保育が適切に展開されるよう、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と、それに関連しながら、より具体的で日々の保育に直接関わる短期的な指導計画や保健計画・食育計画・研修計画を作成していきます。

保育園を利用している保護者に対する子育て支援及び地域の保護者に対する子育て支援は、子どもの保育に関する全体的な計画と密接に関連した中で行い、地域の実情や当該保育園の体制等を踏まえ積極的に行うよう示しています。

また、質の高い保育を展開するため、自己評価・研修等を通して職員一人一人が資質を向上させるとともに、保育園全体としての保育の質を高めることに努めるよう示しています。

この「全体的な計画」は、公立保育園での保育の全体像を包括的に示すものとし、各保育園が家庭や地域の実情に即し、創意工夫して保育できるよう作成しました。各保育園の保育の全体像を職員間で共有し、保育が展開されていくことにより、保育の質の向上を組織的に図るとともに、保育所保育指針を踏まえて、保育の専門性を発揮し、社会における役割を果たしていきます。

札幌市公立保育園 全体的な計画

保育理念	未来に夢と希望を持って、生き生きと育つ環境をつくる 現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うために、様々な環境を整えることを目指す。		
保育方針	豊かな子ども時代を創造する 全ての子育て家庭を支援する ・子どもの最善の利益を考慮し、子どもの健康及び安全を確保しつつ発達を見通した保育を行う。 ・子どもの保育及び保護者や地域の子育て家庭への支援などを実情に応じて行っていく。	保育目標	子どもの心身を健やかに育てる 明るい未来をつくり出す力の基礎を培う ・安心・安全な環境のもと、情緒の安定した生活を送るため、人との関わりを通して愛情や信頼感を育てる。 ・子どもの現在のありのままを受け止め、心の安定を図り、一人一人の子どもの可能性や育つ力を認め、尊重し保育する。
幼児教育を行う施設として共有すべき事項	保育の留意		保育環境
<ul style="list-style-type: none"> ・育みたい資質・能力 ア 知識及び技能の基礎 イ 思考力・判断力・表現力等の基礎 ウ 学びに向かう力、人間性等 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ア 健康な心と体 イ 自立心 ウ 協同性 エ 道徳性・規範意識の芽生え オ 社会生活との関わり カ 思考力の芽生え キ 自然との関わり、生命尊重 ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ケ 言葉による伝え合い コ 豊かな感性と表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発達や個人差に留意し、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助する。 ・新入園児に対しては、できるだけ個別に対応し、安心して保育園の生活になじんでいくようにするとともに、既に入所している子どもに配慮する。 ・クラス移行時や担当が代わるなど、子どもの生活環境が大きく変わる際には、一人一人が安心して過ごせるよう配慮する。 ・子どもの国籍や文化、性差による違いを認め、固定的な意識を植え付けず、互いに尊重する心を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが興味をもち、自発的、意欲的に遊べるよう環境を整える。また、その経験が偏らないよう配慮する。 ・施設内外の設備及び用具等の衛生管理に努め、常に適切な環境を保持する。 ・静と動の活動をバランスよく取り入れ、子どもがくつろいだり、活発に動いたりできるような時間や空間を保障し、安心して過ごせるよう配慮する。 ・子どもが他の人への関心を広げ、人と関わる力が育つよう、様々な人との関わる機会を大切にしている。
	食育の推進		健康・安全
	食育年間計画に基づき、食育計画を作成する。食育の取組は指導計画と関連付けながら、生活や遊びの中で展開される内容とする。		<ul style="list-style-type: none"> ・年間保健計画に基づき、発育、発達に適した生活を送ることができるようになる。 ・安全管理マニュアル、健康・衛生マニュアルに基づく衛生的で安全な環境を整える。
小学校との連携	職員の資質向上		災害への備え
<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連携推進協議会において、小学校教師との意見交換、合同研究等を行い、子どもの育ちに関する情報を共有する。 ・子どもの育ちを支える資料として、保育所児童保育要録を送付する。 ・子どもの発達と学びの連続性を確保するために、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を保育士と小学校教師が共有し、円滑な接続を図る。 	札幌市保育士研修推進計画に基づき、専門的な技能・知識の向上につながる研修、役割に応じた研修(年代別、役割別)ほか、能力開発研修を受け、職員の資質の向上や専門性の向上、組織力の向上に努める。		防災のしおりに基づき、災害に備える。 ア 施設内外の安全管理及び自主点検 イ 避難訓練、消火訓練(毎月) ウ 保護者や地域の関係機関との日常的連携等
保護者に対する子育て支援		地域の保護者等に対する子育て支援	
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の家庭の状況を踏まえ、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、保育園の特性や専門性を生かし支援する。 ・子どものよりよい育ちを支援するため、保護者とともに考え連携する。 ・保護者との共通理解のため、日々の送迎時の対応や相談、助言、連絡、おたより、行事など様々な機会を活用し、保育の意図や保育内容を伝えていく。 ・保護者や子どものプライバシーの保護や秘密保持に留意する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保護者に対して保育所保育の専門性を生かした子育て支援を積極的に行う。 ・地域の関係機関等との連携や協働を図り、子育て支援に関する地域の人材を積極的に活用する。 ・地域の要保護児童への対応、地域の子どもをめぐる課題に対し、要保護児童対策地域協議会などの関係機関等と連携、協力して取り組む。 	

0歳

子どもの育ち		
<ul style="list-style-type: none"> ・身体的成長と視覚や聴覚などの感覚の発達が著しい。 ・首がすわり、寝返りや腹ばいなどの全身の動きが活発になる。 ・座る、はう、立つ、つたい歩き、手を使うなど、運動機能の発達により探索活動が活発になる。 ・泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の要求を表現する。 ・応答的な関わりによる情緒的な絆が形成され、特定の大人との関わりにより、絆が深まる。 ・人見知りをするようになる。 ・簡単な言葉が分かるようになる。 		
保育内容		
養護	生命の保持	・一人一人の子どもの健康状態や発育、発達を的確に把握し、保健的で安全な環境の下で快適に生活できるようにする。
	情緒の安定	・一人一人の子どもの生理的欲求を満ちし、保育士等の愛情豊かな受容的な関わりで心地よい生活ができるようにする。
乳児期に係る3つの視点	○身近なものに関わり感性が育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で活動しやすい環境を整え、寝返り、座る、はう、立つ、つたい歩き、歩く、手を使うなど、それぞれの発達の状態にあった活動を十分に行う。 ・自分の意志や欲求を表情や発声、喃語や身振りなどで伝えようとする子どもの姿を受容し、応答的に関わる。 ・保育士等との応答的な関わりを通して、言葉の理解や発語の意欲を育てる。
	○身近な人と気持ちが通じ合う ○健やかに伸び伸びと育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる環境の下で聞く、見る、触れるなど感覚の働きを豊かにする。

1歳

子どもの育ち		
<ul style="list-style-type: none"> ・歩行の開始や様々な運動機能の発達によって行動範囲が広がる。 ・指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、言葉を習得する。 ・イメージしたものを遊具などで見立てて遊ぶようになる。 ・周囲への関心や大人との関わりの意欲が高まる。 ・離乳食から徐々に幼児食に移行する。 		
保育内容		
養護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの健康状態や発育、発達を的確に把握し、保健的で安全な環境の下で快適に生活できるようにする。また、子どもが自分から体の異常を訴えることができるようにする。
	情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生理的欲求や甘えなど欲求を十分に満たし、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。また、周囲から受け入れられることで自己肯定感が育まれるようにする。 ・一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、子どもと保育士等との信頼関係の下で安定した生活ができるようにする。
教育	(健康・人間関係・環境・言葉・表現)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で活動しやすい環境を整え、体を動かす活動を十分に行う。 ・様々な食品や調理形態に慣れ、食事に興味、関心をもち、楽しい雰囲気の中で食べられるようにする。 ・安心できる保育士等との関係の下で、排泄、衣服の着脱などに興味をもち、自分でしようとする気持ちを育む。 ・安心できる保育士等の見守りの下で、身近な大人や子どもに関心をもち、関わろうとする。 ・好きな玩具や遊具、自然物に自由に触れ、十分に遊ぶ。 ・興味のある絵本を保育士等と一緒に見ながら、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして遊ぶ。 ・保育士等との応答的な関わりや話しかけにより、言葉を使うことを楽しむ。 ・保育士等と一緒に歌や簡単な手遊びを楽しんだり、また、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。

2歳

子どもの育ち		
<ul style="list-style-type: none"> ・全身を動かしたり手や指先を使ったりした遊びができるようになる。 ・保育士等に認められながら食事、排泄、衣服の着替えなど、簡単な身の周りのことを自分でやってみようという気持ちが高まる。 ・何にでも意欲的に取り組もうとするが、うまくいかないときは癇癪を起したり、「やる」「やらない」「いや」など自己主張をしたりすることが多くなる。 ・友達と一緒に遊び、生活する中で保育士等が仲立ちとなり、言葉のやり取りやごっこ遊びなどイメージを共有した遊びを楽しむ。 		
保育内容		
養護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの健康状態や発育、発達を的確に把握し、保健的で安全な環境の下で快適に生活できるようにする。また、子どもが自分から体の異常を訴えることができるようにする。
	情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生理的欲求や甘えなど欲求を十分に満たし、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。また、周囲から受け入れられることで自己肯定感が育まれるようにする。 ・一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、子どもと保育士等との信頼関係の下で安定した生活ができるようにする。
教育	(健康・人間関係・環境・言葉・表現)	<ul style="list-style-type: none"> ・走る、跳ぶ、登る、押す、くぐる、引っ張るなど、全身を使う運動を取り入れた遊びや、触れる、たたく、つまむ、丸める、めくる、転がすなどの手や指を使う遊びを楽しむ。 ・食事に必要な習慣を知り、友達と一緒に楽しく食べる。 ・保育士等に見守られながらトイレで排泄しようとする。 ・安心できる保育士等との関係の下で、食事、排泄、衣服の着脱などに興味をもち、自分でしようとする。 ・親しみをもって自分から身近な大人や友達に関わって遊ぶ。 ・生活の中で様々なものや自然に触れ、好奇心や探求心が芽生える。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かり、様々な出来事に関心を示したり、自分のしたいこととしてほしいことを言葉で表したりする。 ・友達や保育士等と季節や文化、行事に触れ、雰囲気を楽しむ。 ・保育士等と一緒に、簡単なごっこ遊びなどをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。 ・保育士等と一緒に、様々な素材に触れて楽しむ。 ・興味のあることや経験したことなどを生活や遊びの中で保育士等と一緒に自由に表現する。 ・保育士等と一緒に歌ったり、簡単な手遊びをしたり、また、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。

3歳

子どもの育ち		
<ul style="list-style-type: none"> ・全身を使って遊ぶことができる。 ・衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な基本的な生活習慣がほぼ自立する。 ・友達とイメージを共有して同じ遊びをするようになり、仲間意識が高まる。友達と一緒に遊ぶ中で、遊具や道具などを貸し借りしたり、順番を待ったり交代したりすることができるようになる。 ・困ったことやしてほしいこと、自分の思ったことや感じたことを自分なりの言葉で伝えようとする。 ・見たものや感じたものになりきって動くなど友達とストーリーに沿って遊ぶことを楽しむ。 		
保育内容		
養護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの健康状態や発育、発達を的確に把握し、保健的で安全な環境の下で快適に生活できるようにする。また、子どもが自分から体の異常を訴えることができるようにする。
	情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生理的欲求や甘えなど欲求を十分に満たし、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。また、周囲から受け入れられることで自己肯定感が育まれるようにする。 ・一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、子どもと保育士等との信頼関係の下で安定した生活ができるようにする。
教育	(健康・人間関係・環境・言葉・表現)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な動作や運動を十分に経験し、楽しさを味わう。 ・食事に必要な習慣が身に付き、友達や保育士等と一緒に、食べる喜びや楽しさを味わう。 ・食事や衣類の着脱、排泄など、身の回りのことを保育士等の援助を受けながら自分で行う。 ・友達に興味をもちはじめ、一緒に遊ぼうとする。 ・身近な大人や友達と共通したイメージをもって遊びを楽しむ。 ・身近な動植物をはじめ自然事象を見たり、触れたりして親しみをもつ。 ・生活や遊びの中で、身の回りの物の色、数、量、形などに興味をもち、違いに気付く。 ・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、保育士等や友達と言葉のやり取りを楽しむ。 ・興味をもったことを保育士等と一緒に、様々に表現して遊ぶ。 ・友達と一緒に音楽を聴いたり、歌ったり、体を動かしたりして楽しむ。 ・感じたことや考えたことなどを、描いたりつくったりして表現しようとする。 ・友達や保育士等と一緒に、地域や季節の行事に楽しく参加する。

4歳

子どもの育ち		
<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能が伸び、運動遊びをしたり、全身を動かしたりして活発に遊ぶ。 ・基本的な生活習慣が確立する。 ・目的に向かって集団で行動し、遊びを発展させ楽しむ。 ・社会生活に必要な基本的な力を身に付ける。 		
保育内容		
養護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの健康状態や発育、発達を的確に把握し、保健的で安全な環境の下で快適に生活できるようにする。また、子どもが自分から体の異常を訴えることができるようにする。
	情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生理的欲求や甘えなど欲求を十分に満たし、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。また、周囲から受け入れられることで自己肯定感が育まれるようにする。 ・一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、子どもと保育士等との信頼関係の下で安定した生活ができるようにする。
教育	(健康・人間関係・環境・言葉・表現)	<ul style="list-style-type: none"> ・全身を使いながら、様々な遊具や遊びなどに挑戦する。また、遊具、用具などの使い方を知り、安全に気を付けて楽しく遊ぶ。 ・健康、安全など生活に必要な基本的な習慣を身に付け、食事、排泄、衣類の着脱等を自分で行う。 ・保育士等や友達とのつながりを広げ、集団で活動することを楽しみ、積極的に関わりながら遊ぶ。 ・友達と生活する中で、きまりの大切さに気付き、守ろうとする。 ・地域の人に関心をもち、関わりを広める。 ・身の回りの人々の生活や身近な社会事象に関心をもつ。 ・身近な自然や環境に興味をもち、自分から関わり発見を楽しむ。 ・自然や身近な事物、事象に触れ、興味関心をもつ。 ・具体的な物を通して、数や量などに関心をもち、簡単な数の範囲で数えたり、比べたりすることを楽しむ。 ・様々な言葉に興味をもち、保育士等や友達の話の聞いたり、話したりする。 ・いろいろな体験を通し、イメージや言葉を豊かにする。 ・友達と一緒に音楽を聴いたり、歌ったり、体を動かしたり、楽器を鳴らしたりして楽しむ。 ・自分で考えたこと、感じたことや思ったこと、想像したことを、自由に表現する。 ・地域や季節の行事に参加し、日本の伝統や文化に関心をもつ。

5歳

子どもの育ち		
<ul style="list-style-type: none"> ・全身運動が滑らかで巧みになり、自信をもって活動するようになる。また、心身ともに力があふれ、意欲が旺盛になる。 ・仲間の意思を尊重し、役割分担や協同して遊びを展開するようになる。 ・経験や知識を生かし、創意工夫を重ね、遊びを発展させる。 ・思考力や認識力も高まり、自然事象や社会事象、文字などへの興味や関心が深まる。 ・様々な経験を通して、自立心が一層高まっていく。 		
保育内容		
養護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの健康状態や発育、発達を的確に把握し、保健的で安全な環境の下で快適に生活できるようにする。また、子どもが自分から体の異常を訴えることができるようにする。
	情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生理的欲求や甘えなど欲求を十分に満たし、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。また、周囲から受け入れられることで自己肯定感が育まれるようにする。 ・一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、子どもと保育士等との信頼関係の下で安定した生活ができるようにする。
教育	(健康・人間関係・環境・言葉・表現)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な用具を使い、体全体を協応させた運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。また、友達と一緒に工夫して遊びを展開する。 ・体と食物の関係に関心をもつ。 ・安全に必要な基本的な習慣や態度を身に付け、理解して行動する。 ・生活の中で危険を予測し、安全に気を付けて行動する。 ・進んで自分の意見や立場を主張したり、相手の意見を受け入れたりする。 ・いろいろな人との関わりの中で、優しさや思いやりの気持ちをもつ。 ・仲間と共通の目的をもち、協力して物事をやり遂げようとする。 ・きまりを守る必要性が分かり、友達と折り合いをつけながら行動する。 ・身近な社会や環境に自ら関わり、自分たちの生活との関係に気付き、生活や遊びに取り入れる。 ・身近な動植物に親しみ、命の尊さを知ったり、進んで世話をしたりする。 ・自然事象の性質や変化、大きさ、美しさ、不思議さなどに関心を深める。 ・身近なものを大切に扱い、自分の物を整頓する。 ・日常生活の中で時間や数量、図形等の概念を知る。 ・身近な事物や事象について話をし、日常生活に必要な言葉を適切に使う。 ・自分の経験したこと、考えたことなどを適切な言葉で表現し、相手と伝え合う楽しさを味わう。 ・身近にある文字や記号などに興味や関心をもち、それらを使おうとする。 ・音楽に親しみ、友達と一緒に聴いたり、歌ったり、踊ったり、楽器を弾いたりして、音色やリズムの楽しさを味わう。 ・様々なイメージを広げるとともに、感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。 ・行事などの参加や遊びを通じ、日本の伝統や文化、国旗などに親しむ。また、異なる文化に触れ、関心をもつ。